

防災対策

そこまで聞こえている
地震の足音
いつ起きるか分からない
でも、必ず起きる



石川県能登半島地震による被害（輪島市内）

巨大地震は、貴
い命や大切な財産
を一瞬にして奪い
ます。
そのとき、あな
たの家は安全です
か。そのとき、あ
なたは愛する家族
を守れますか。そ
のとき、あなたと
家族は避難場所に
たどり着けます
か。
東海地震の発生
が高い確率で予測
されている今、市
民一人一人が防災
意識を持つことの
意味を考えます。

東海地震発生確率87%

巨大地震はいつ起きてもおかしくありません。そして、いつ起こるか分からないところに地震の怖さがあります。
国が作成した地震動予測地図によると、阪神淡路大震災の発生した当時、兵庫県南部地域において地震が発生する確率は、わずか0.028%でした。
それでも、マグニチュード(M)7.2、震度7の揺れを観測し、死者6千434人、行方不明者3人、負傷者4万3千792人の被害者を出す巨大地震が起きました。
このことは活断層をいくつも抱えている日本列島において、驚きと同時に、地震はいつ、どこで起きてもおかしくないことを日本中に知らしめました。
さらに地震動予測地図によると、東海地震(M8程度を想定)は30年以内に87%の確率で発生するといわれています。まさに、いつ起きてもおかしくないのです。
東海地震が起きるとき、恵那市では震度5、6の揺れが発生すると予測されています。



発生直後、市役所の機能は停止します

地震が発生した直後、市役所や消防署はすぐに救出に駆け付けてくれるのでしょうか。
実際のところ、阪神淡路大震災では、消防署の能力をはるかに超える災害が発生し、通報のあった火災や救急のすべてには対応しきれなくなっていました。
そして被害情報の把握が難しいことも、機能しない原因でした。市役所でさえ、そのとき、何が起きたのか分からなかったのです。どのような被害が出ているのか、どこで救助が必要なのか、地震の規模が大きければ大きいほど最初はまったく状況が分からないのです。
さらに地震はすべての人を襲いません。当然、消防署も被災し、職員も被災するのです。そのような状態から、順に被害を把握し救出作業に向かうこととなります。
地震発生直後、まずは自分で自分を守る必要があります。
この自分自身を守る「自助」。そしてお互いに助け合う「共助」。さらに市役所や消防署などが行う「公助」。地震が起きたとき、この「自助」「共助」「公助」の連携が大切になってきます。

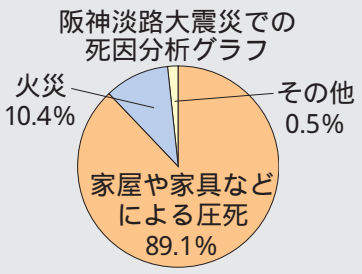


防災士 岩井慶次さん（大井町）
昨年、防災士の資格を取得。市民による防災研究会を立ち上げ、防災グッズを考案するなど、防災まちづくり活動に力を注いでいる。

耐震補強と家具転倒防止を

私たちにできることはどのようなことでしょうか。防災士の岩井さんに聞きました。
阪神淡路大震災では、6千400人を超える死者の約89%が、家屋や家具の下敷きになる圧死であり、その恐ろしさを思い知らされました。そして助かったとしても、家が倒壊してしまつた人々は、戻るのが難しくなり避難所生活になります。また家屋の全半壊を免れたとしても、約6割の部屋で家具などが転倒しました。その結果住宅内部でけがをした人の約75%は家具類の転倒な

どが原因によるもの
だったので。



直接打撃を受けなくても倒れ込んだ家具がドアなどの通り道をふさぎ、火災からの避難

が遅れた例もあります。まずは手軽にできる家具転倒防止をお勧めします。多くの人が家具転倒防止対策をすることで、確実に被害は減り、何よりも家での安全性を高めてくれます。
家の耐震補強はもちろんです。愛する家族やマイホームを守るために必要なことなのです。
現在、市内の高齢者を中心に家具転倒防止ボランティア作戦を実施しています。一軒でも多くの家に対策を講じることが、被害を最小限に食い止めることにつながります。



家庭で避難場所の確認を

家庭の中で、常日ごろから地震に対する心構えを持つことも大切です。地震が起きたとき家族が一緒にいるとも限りません。仕事をしているときや、どこか外に出掛けているときに起こるかもしれません。お互いに連絡が取れない状況になってしまったときのことを考え、どこに避難するかをあらかじめ決めておくことが大切です。
災害伝言ダイヤルの利用方法など、家族みんなが知っておくことも重要でしょう。(4ページを参照)

非常持ち出し品は必ず用意を

地震発生直後は、道路が損傷し水道や電気などのライフラインもストップしてしまうことが予想されます。しかも避難所にさえ、すぐには救済物資が届くとも限りません。
まずは、自分で自分の身を守る必要があります。そのための非常持ち出し品は、必ず用意してください。(4ページを参照)
また非常持ち出し品には、何が必ず必要なのかを一人一人が考えることも大切です。市販の



助けてくれたのは近所の人

阪神淡路大震災で救助された人のほとんどが、地域の住民によるものでした。
地域のつながり、地域での助け合いが、いざというとき、貴い命を救うことができるのです。
これは、震災での大きな教訓です。

私たちにできること

地震の発生を防ぐことはできません。しかし、事前の準備、心構えによって被害を最小限に抑えること(減災)はできます。
今私たちに、日本各地で起きている巨大地震の教訓を学び、いつ自分の身に襲い掛かるかもしれない大地震に備えておく必要があります。
大切なのは、防災のための意識と知識と技術を持つことです。



地域のつながりが育てる他人を思いやる心

地域の自主防災隊 大井町御所之前自治会自主防災隊長 戸田昭平さん

市内を通る中山道と大井宿本陣、そして武並神社と挟まれるように位置する大井町御所之前自治会。この地域は、市指定民俗無形文化財の送り神やどんど焼など、昔からの伝統行事を今もなお残し続けています。秋祭りには、若者が中心となりみこしを作成するなど、結束力の強い地域ともいえるでしょう。そんな御所之前には、28年ほど前から自主防災隊が組織されています。

自治会長を中心に構成されているこの自主防災隊は、総括・情報班 救出救護・発電機班 水防・消防班 避難誘導班 給食給水班の5班に分けられ、住民一人一人が役割を分担しています。年に一度の防災訓練時には、それぞれの班が連携し、炊き出し訓練、救出訓練、消火訓練、救急訓練など小学生から年配の方々まで一丸となつて行います。

組織構成で特徴的なのは、隊長一人、隊長代理の二人、各班は体力の許す限り長期間にわたり、その役を担っています。すべての役を自治会役員で組織してしまうと役員交

代時期には機動力が低下してしまう恐れがあるからです。

私達は、自治会（社会）で生活させて頂いていますが、自分の気づかない所で周りの方々に迷惑を掛けている、または、助けて頂いて生活が成り立っていると思えます。一人一人が支えあつて生きていくためには諸先輩方から「他人を思いやる心が大切！」と子供のころから教えて頂いています。他人を思いやる心、地域住民の一体感、人と人とのつながり、地域社会を守る防災力もその延長線上にあると強く感じます。

今後、諸先輩方が長年にわたり培ってきた「精神風土」を、後から歩いてくる「将来の自治会を担う子供達」への遺産として継承して行きたい。



救出訓練の様子

インタビュー

家具転倒防止ボランティア作戦での利用者と、参加した中学生ボランティアに話を聞きました



樋田倉己さん
(笠置町・80歳)

家には背の高い家具も多くあり、危険性を感じていました。ボランティアの皆さんの協力により金具をつけることができました。気持ちに余裕ができ、何よりも安心できました。ありがとうございました。



成瀬楓さん
(恵那北中2年生)

家具転倒防止をしておくことで、地震が起きても多くの人が助かると思い、今回のボランティアに参加しました。家具にはいろいろな形があり、それに合う金具やねじを選ばないといけないので大変だと思いました。



林美佳さん
(恵那北中2年生)

家族で地震について話したとき、家具転倒防止の対策は必要だと感じ参加しました。自分の地域にはまだ対策をしていない人がたくさんいて、地域全体で対策をできたら地震で命を落とす人も少なくなると思います。

非常持ち出し品

各家庭でいざという時のために備える「非常持ち出し品」。災害時、被災地に救援物資が届くまでの3日間程度を自足し、しのぐための備えとなります。1次持ち出し品、2次持ち出し品と、リストを参考にあなたのご家庭でも考え、ぜひ用意しておいてください。



ヘルメット

避難に際して、余震などによる落下物から頭を守ります。



運動靴

被災時は、靴なしでは全く外を歩けない状態になってしまいます。



懐中電灯

持ち運びの面からも軽いものが良い。予備電池も忘れずに。



携帯ラジオ

被災時の情報の収集は必要不可欠。予備電池も忘れずに。



飲料水

ペットボトルの物であれば長期間保存が可能。1人1日3ℓが目安。



非常食

調理不要で食べることができ、腹持ちのする高カロリーの良い。



薬

非常時用として、最低限の物を用意しておく。薬の有効期限にも注意。



お金

電話は公衆電話しか使えない可能性があるため、小銭を多めに準備しておく。

1次持ち出し品

避難時にすぐに持ち出すべき、必要最低限の備えで、非常時の最初の1日間をしのぐための物。

非常食 飲料水 懐中電灯 ライター 携帯ラジオ 薬箱 レジャーシート ポリ袋 簡易トイレ トイレトペーパー タオル 小銭(10円玉) ガムテープ(布製)など

2次持ち出し品

避難した後に少し余裕がでてから自宅から持ち出す物。救援物資が届くまでの3日間程度をしのげる分量を用意。

衣類 下着 洗面用具 毛布 卓上コンロ ガスボンベ 固形燃料 鍋 食器 ラップ アルミホイル 石鹸 新聞紙 使い捨てカイロ 雨具 飲料水 食料品など

災害伝言ダイヤル171

「171」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って、伝言の録音・再生を行ってください。

【自分の伝言を録音する場合】

171番をダイヤルし、アナウンスにしたがって、①ボタンを押します。自宅の電話番号を市外局番から入力します。アナウンスにしたがって、伝言を録音します。

【録音された伝言を聞く場合】

171番をダイヤルし、アナウンスにしたがって、②ボタンを押します。自宅の電話番号を市外局番から入力します。録音された伝言が再生されます。

